

我ら、山県市 地域おこし 協力隊！⑩

つば い あ や こ
坪井亜也子



野菜を作り販売することで、山県市の良さを知ってもらいたい。
4月に名古屋から出戸地区に移住し、自然農法による農業に取り組んでいる坪井亜也子さんの思いだ。

坪井さんは、野菜中心の食生活を送る中で安全・安心な野菜を自分の手で作りたいたいという思いが強くなった。どのように夢を叶えるか模索する中で、自然農法による野菜作りと出会い、夢を実現できる場所を探して山県市を知った。

はじめは農地付きの空き家を探して山県市を訪れたが、せっかく住むなら地域の人たちとのつながりを大切にしたいと、地域おこし協力隊として山県市に移住を決意した。

山県市を訪れた第一印象は？

「名古屋からそれほど遠くないところに、こんなに自然豊かな場所があることに感動しました。綺麗な水、空気。都会生まれの私には、山県市の自然は贅沢だと思いました」

そんな坪井さんは、地元の仕事にも積極的に参加。現在、住まい近くの畑で土作りをしながら、週末にはふれあいバザールで接客の仕事もしている。「ふれあいバザールで接客をするうちに、知り合いになった農家さんに、農業のノウハウを教えてもらったり、お客様との楽しいおしゃべりをしたり、人と人とのつながりが感じられることが何よりも楽しいです」と笑顔で話してくれた。

今後は、土作りをしている畑に自然農法で学んだ技術を生かし、シヨウガを栽培する予定だ。シヨウガは有害鳥獣の中でも猿の被害を受けにくい野菜であり、乾燥し、粉末にすることで日持ちし、加工品としての利用もできる。シヨウガ以外にも、季節の野菜を栽培し、ふれあいバザールで販売する考えだ。

山県市で育てた野菜や加工品を販売することで、自然豊かな山県市を多くの人に知ってもらいたいと語ってくれた。

編集後記

先月の編集後記に「鳴かぬ虫」と書きましたが、今月号の表紙は、みやまの森の虫です。7月——。身を焦がした虫から、鳴く蝉の季節を迎えます。が、その前に梅雨です。近年の梅雨はゲリラ豪雨など異常な降り方をすることがあります。幸い、災害が少ないこの地域。毎年、全国各地で起こる災害も、どこか他人事になりがちです。7月号では、昭和51年の水害を取り上げました。もう一度、我が事として振り返る機会となりました。(U)

先日取材で、富岡小学校で行われた、関西フィルハーモニー管弦楽団の公演を聴くことができました。素晴らしい生演奏に、思わず聴き入ってしまった。素晴らしい生演奏に、思わず聴き入ってしまった。最後に、子どもたちが、オーケストラと一緒に校歌を歌う場面があり、オーケストラの素晴らしい音楽と、子どもたちの生き生きとした歌声に、元気をもらいました。(Y)

「災害に平時はない」これは、特集でインタビューした岩井さんがおっしゃった言葉です。もしものときに備えて、いつも、できることを少しずつ積み上げることが大切です。平成27年度に鬼怒川で起こった堤防決壊のニュースを覚えている人もいるかと思いますが、実は、岐阜や山県でも過去にあの災害に匹敵する水害がありました。万が一災害が起こったときに、冷静に動けるよう心の備えをしておきたいです。(N)

広報山県

Kouhou
YAMAGATA

発行 山県市
〒501-2192
岐阜県山県市高木1000-1

編集 企画財政課
TEL 0581-22-6825
FAX 0581-27-2075

URL <http://www.city.yamagata.gifu.jp/>
E-mail info@city.gifu-yamagata.lg.jp

R70

VEGETABLE
OIL INK

この広報紙は再生紙を使用し、大豆油を含む植物油を使用したインキで印刷されています。

UD
FONT

by MORISAWA